

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	利根沼田子ども発達支援センターリズム		
○保護者評価実施期間	令和7年1月23日		～ 令和7年2月4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	令和7年1月19日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月24日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	移行・インクルージョンを目的とした併用保育園等との連携を行っている。	併用保育園等とは保護者の同意を得て日常的に連絡を取り合っています。 児童発達支援管理責任者・担当職員が実際に他機関に伺い見学させていただき、スタッフ間で情報共有しています。	専門家(管理栄養士・歯科医師・心理士)の保護者研修会
2	専門職員への相談がしやすい状況にある。	保護者に対する児童発達支援管理責任者・心理士・言語聴覚士等の相談を随時受け付け、タイムリーな個別相談の機会を持っています。 また、職員の療育上の悩みや相談に対して、ミーティング時グループで、また個別でも心理士・言語聴覚士が相談の機会を持っています。	他の専門職員(医師・管理栄養士・歯科医師等)の保護者研修会の開催を継続します。 保護者・職員の相談内容を個別のものと共有し得るものと分け、必要に応じて情報共有の方法を検討して実施します。
3	管理栄養士を交えた給食会議開催と保護者への情報提供ができる。	月1回給食会議を管理栄養士・児童発達支援管理責任者・調理員・必要に応じて所長参加のもと開催し、情報共有しています。 献立・食育に関わる記事等を保護者にコドモンにて配布しています。 嗜好・家庭での様子のアンケート調査を行い保護者研修会にも利用しています。	配慮が配慮が必要な場合は個別で連絡を取っているが、それ以外の場合は情報が一方的になりがちなので、保護者の意見を吸い上げる工夫を検討し意見を聞き取っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	計画的な、地域で他のこどもと活動する機会がとれなかった。	児童発達支援センター開設後の1年半は、基本的な療育体制の安定を中心に事業を計画してきたため、児童が地域と直接交流する機会の計画まで至りませんでした。	療育活動について共同できるような地域他機関との関係作りを検討します。
2	家族等も参加できる研修会や情報提供の機会や家族の交流の機会が少ない。	今年度は年度2回の保護者参観時の懇談会と研修会を行うのが限界でした。 家族会等の必要性についてコンセンサスを得る段階に至っていないため、保護者が継続した保護者会としては活動しておりません。	保護者参観時の懇談会・研修会の内容の充実を図ります。 保護者対応を企画する職員体制を作っていきます。 また、他に保護者からの相談の個別対応は比較的多いので、これを情報提供の場として利用していきます。
3	きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	きょうだいを対象とした交流等については検討段階です。	保護者やきょうだいのニーズを、知ることから始めていきます。 他事業所のきょうだいを対象とした交流会への参加などを通じて職員全体で持つことも検討していきます。